令和6年度 ㈱神戸製鋼所加古川製鉄所及び

関西熱化学㈱加古川工場環境保全協議会議事録

1. 開催日時：令和6年7月23日（火） 9：30～11：00

2. 開催場所：㈱神戸製鋼所加古川製鉄所 大ホール

3. 会議内容

(1) 開会あいさつ

(2) 委員の紹介

(3) 議題

①議案

議案1・・・令和5年度環境保全協議会収支決算について

－ 承認 －

－ 質疑 －

(委員) 研修費が執行されていない理由は何か。また、研修は例年実施しているものなのか。

(事務局) 例年実施はしていないが、必要となった場合に備えて予算措置している。

(委員) 予算措置しておくべきなのか。どんなときに研修をするのか。

(事務局) 具体的な予定はない。ただ、人数も多いため、実施する場合は有益な資料の配布なども考えられることから、研修費としている。

議案2・・・令和6年度環境保全協議会収支予算案について

－ 承認 －

議案3・・・要綱の一部改正について

－ 承認 －

②報告事項

報告1 令和5年度立入調査結果について

(兵庫県報告)

- ・降下ばいじんについては、令和3年度の降下ばいじん自主管理目標値超過に関する対策（焼結工場集じん機）の確認、令和5年7月の降下ばいじん自主管理目標値超過に

関する操業状況の確認及び対策の確認を行い、管理面として作業標準やパトロール項目の見直しを指示している。

- ・その他、ばい煙発生施設の届出・稼働状況、産業廃棄物に関する状況を確認し、問題がないことを確認している。

(加古川市報告)

- ・大気関係 23 回、水質関係 21 回、騒音関係 2 回、延べ 46 回の立入調査を行った。
- ・水質関係の立入調査では、排水口での水質調査、排水差温調査、汚濁負荷量調査、pH 計の精度確認を行い、協定値の超過はないことを確認した。
- ・大気関係の立入調査では、粉じん発生のおそれがある堆積場の現地調査、排ガス測定結果のチャート照合等を行った。なお、令和 5 年 7 月の降下ばいじん自主管理目標値超過に関する操業状況の確認及び対策の確認も県と合同で行っている。

また、テレメータ監視結果として窒素酸化物については最大 514Nm 時、硫黄酸化物については最大 424Nm³/時であり、いずれも令和 5 年 4 月の結果である。原因としては焼結工場の脱硫脱硝施設が改修工事により停止していたためであるが、協定値の超過はなかった。

- ・騒音関係では製鉄所敷地境界での騒音測定を行い、騒音規制法の基準値超過は無かった。
- ・降下ばいじんについては加古川神鋼ビル、別府小学校、尾上小学校における降下ばいじん総量は 3.2t/km²/月となり、前年度と比較して減少している。
- ・令和 5 年度に加古川市が受け付けた製鉄所に対する苦情件数は 10 件であり、主な内容は粉じん、煙突の有視煙、におい、夜間の操業音への意見であった。

報告 2 協定書の実施状況について ((株)神戸製鋼所加古川製鉄所報告)

(大気関係)

- ・硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじんの時間排出量、年間排出量について協定値を遵守している。
- ・降下ばいじんについては、令和 5 年 7 月に加古川神鋼ビルにおいて製鉄所自主管理目標値を超過した。

(水質関係)

- ・COD、SS、ノルマルヘキサン抽出物質及び溶解性鉄の負荷量について、協定値の超過は無かった。

(騒音関係)

- ・製鉄所周辺 3 地点で騒音を監視している。環境基準 60dB を超えた時間もあるが、虫の鳴き声、降雨時の雨音、トラック走行音等の影響であり、製鉄所の操業に起因する騒音はなかった。

(悪臭関係)

- ・アンモニア、硫化水素について敷地境界で臭気測定を行い、法令の基準を遵守した。

(発成品対策関係)

- ・製鉄所内で発生するスラグについてはセメントや路盤材として有効活用し、再資源化に取り組んでいる。

(情報公開関係)

- ・令和5年5月28日に現地説明会を開催した。15名の出席があり、環境保全の取り組み状況を説明するとともに、現地見学を行った。

(降下ばいじん対策)

- ・令和5年度の降下ばいじん自主管理目標値未達成については、新溶銑処理工場内脱りん炉へ原料を輸送するベルトコンベアの集じんダクトにダストが堆積したことによる集じん能力の低下が原因であった。応急対策として風量を確認しながらの操業を行い、恒久対策として集じん配管の増設・見直しを行った。

(環境に関する問合せ)

- ・環境フリーダイヤルにて粉じん、悪臭、騒音に関する問合せを受け付けた。内容に応じて所内の状況を確認し、相手方に説明している。

－ 質疑 －

(委員) 硫黄酸化物や窒素酸化物の協定値が昭和53年から見直されていない。町内会でも住民から粉じん等についての意見がある。立入調査結果の報告についても協定値を満足しているから問題ないと言われていたが、30数年見直されていないものを満足しても意味がないのではないか。

(神鋼) 協定値については必ず守るべきものと認識している。協定値を守っているからいいというのではなく、より負荷を下げるよう努力している。現状協定値に対して大きく下回っているのは、努力をした結果であるとしてご理解いただきたい。

また、協定値については、製鉄所建設時の環境アセスメントの結果によるものと認識している。

(委員) 30数年前と今では技術水準が異なる。例えば平成11、12年ごろの硫黄酸化物排出量が高くなっており、協定値が守れているとはいえ、現在の水準としては緩いものになっているのではないか。

(神鋼) データは最大値と平均値を記載しており、最大値は常時監視している1時間ごとの全データの最大ものを記載していることから、脱硫設備の一時的な不調などが含まれている。一方で、平均値については大きく上昇しているようなことはなく、適切な維持管理の結果であることをご理解いただきたい。

(委員) 協定値は見直す気がないということで良いか。また、他社の製鉄所の取

組はこの協定値と比べてどうなのか。
(神鋼) 協定値については事業者の立場のみでコメントできないのでご理解いただきたい。他社の協定値についての情報は持ち合わせていない。

(4) その他

協議会の内容を加古川市ホームページに掲載することを事務局より説明

(5) 工場見学

コークス工場集じん機、防風ネット（高所散水設備）、脱りん炉ベルトコンベア集じん配管、防じんネット（敷地境界散水設備）について見学

(6) 閉会